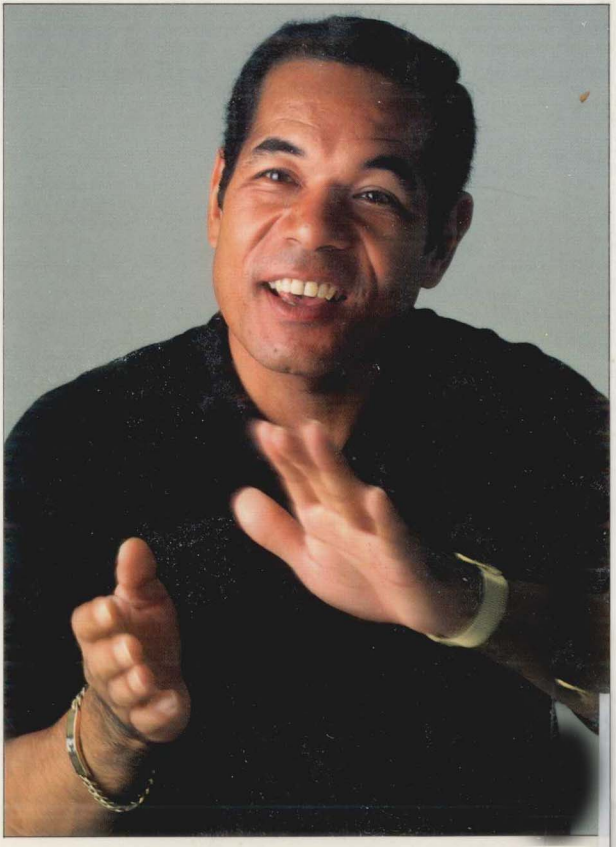
お父さんから きみたちへ

明日(あす)を信じて

衣笠祥雄

●日夜(にちや)、夢の確認をしなさい。
そのために、今日、自分が努力したかを考えなさい。



講談社

衣笠祥雄

お父さんからきみたちへ

明日(あす)を信じて

講談社

衣笠祥雄 きぬがさ　さちお

昭和22年1月18日京都生まれ。平安高校卒業。昭和40年広島カープ入団。昭和62年のシーズン終了で引退するまでの23年間のプロ野球生活で、アメリカ大リーグのルー・ゲーリッグの2130試合連続出場の世界記録を超える2215試合連続出場の新記録を樹立する。MVP賞、正力賞受賞。デッドボールで骨折しても翌日の試合に出場したことから、〝鉄人〟の異名をとる。
昭和62年6月国民栄誉賞受賞。
現在、TBSスポーツコンサルタント。また、広島大学学校教育学部特別講師として教壇に立つ。
正子夫人、長女永真、長男友章の4人家族。

お父さんからきみたちへ 明日を信じて

定価●1000円
1988年10月15日第1刷発行
1989年1月13日第3刷発行

著者●衣笠祥雄
発行者●加藤勝久
発行所●株式会社講談社
〒112　東京都文京区音羽2-12-21
電話　東京(03)945-1111(大代表)
企画編集●株式会社講談社出版研究所
代表　山本康雄
〒112　東京都文京区小日向4-6-19　共立会館
電話　東京(03)943-2613
印刷所●信毎書籍印刷株式会社
カバー●千代田オフセット株式会社
製本所●株式会社黒岩大光堂

©衣笠祥雄　1988年　Printed in Japan
落丁本・乱丁本は小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは講談社出版研究所宛にお願いいたします。　(担当　西村佳住子)
ISBN4-06-203834-X(0)(研)

お父さんからきみたちへ

明日(あす)を信じて

◉目次

はじめに
1 出発 ―― 11
いつでもスタート地点
きみたちへ
2 お父さんがきみたちのころ ―― 19
小学生時代
中学生時代
高校生時代
3 助走 ―― 33
どん底
はい上がる
闘争心
優勝そしてスランプ
4 できるんだ ―― 55
ヒント
自分らしく
ピンチ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

プラス思考
素質と才能と成功と
素質
才能か努力か
成功

5 小さいということは大きいということ——79

ひとつひとつ
「怪我をするな」と先輩が言った
自信
深夜のフルスイング
ありがとう——小さな光

6 出会い——103

はじめての出会い
高校野球の恩師
監督、コーチ、そして先輩たち
初恋

7 そのとき「美しい」と思った——123

スイングフォーム＝シンプル・イズ・ベスト
チームワーク

きみたちと休日に
無心
8 いい男になれよ——139
愚痴を言うな
男に慰めはいらない
ライバル
男の財産
9 素敵な女性になれよ——153
信頼
ふっと思いやり
いつも教材
マナー
美しい
10 夢——明日を信じて——175
童夢
明日を信じて
あとがき　永真と友章へ

お父さんからきみたちへ　明日(あす)を信じて

デザイン　熊谷博人

はじめに

お父さんは十二歳で野球を始め、十八歳でプロ野球の選手になった。そして二十九年の間、野球に長い青春のすべてを賭けてきた。ほんとうにユニフォームを脱いだその日までが、お父さんの青春だったと思っている。

その間、楽しいこと、うれしいことはいっぱいあったけれど、苦しいこと、つらいことも多かった。いちばんつらかったのは、打てないときだった。打てないためにチームが勝てないとなると、苦しみはいっそう増した。

どうしたら打てるようになるのか、どうしたらこの苦しみの泥沼からはい上がれるのか、どうしたらもっと自分らしく、楽に生きられるのか、衣笠祥雄って、いったい何なんだ……。

つらくなると、一筋の明るい光を求めて、さまざまな疑問を自分に投げかけながら答えを捜し、泥沼からの抜け道を捜した。

でも、答えはそう簡単には見つからないものだ。

そんなとき、お父さんは本を読んだ。答えを得るために、自分の考えに凝り固まらないために、別の新しい考え方を手に入れるために、本を読んだ。

たとえば、打てなくなったとき、お父さんはまわりからいろいろなことを言われたよ。「ひっこめ」「もう辞めろ」「役に立たない三番バッター」……、ありとあらゆる野次を浴びせられた。

打てないことだけでも苦しいのに、さらに心がボロボロになるようなことば。お父さんは二倍、落ちこんだ。

そのときだ。鎌倉のお坊さんが書いた本を読んだ。「ただの人になれ」とその本には書いてあった。

お父さんは思った。人は裸で生まれてきた。それがいつのまにか、いろいろな技術や経験やまわりの評価を得るうちに、裸だった自分のことを忘れてしまう。打てないと人から非難されるということばかりに翻弄されて、それでも生きているじゃないか、ということへの感謝の気持ちを忘れてしまうんだ。

裸で生まれてきた人間が、一枚、洋服を着る。またその上に一枚、服を着る。そうやってたくさん服を着こんだとき、一枚、服を脱がされると、〝寒い〟と思う。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

それと同じなんだ。思っていたほど自分はできなかった、とか、自分の評価が下がったために味わう屈辱感は、服を一枚脱がされて〝寒い〟と感じるのと同じなんだね。はじめから、自分は裸だ、ただの人だ、と思っていれば、人の評価や自分の失敗に、むやみに落ちこむ必要はない。もっと素直に〝自分〟に喜び、感謝し、未来を見ることができる。

その本は、お父さんにそんなことを教えてくれたんだ。

つらくなったとき、苦しくなったとき、困ったとき、お父さんより長く生き、深い経験を積んだ先人たちの本が、お父さんに明るい光を与えてくれた。

永真、友章。お父さんは、きみたちよりも長く人生を生きている。きみたちより多くのことを知っているつもりだ。だから、これからふたりが、ひとりの女性、ひとりの男として、つらい壁に当たり、明るい光を求めるとき、そのヒントにこの本が役立ってくれればと思い、お父さんは本を書くことにした。

流した涙を乾かしたいとき、勇気がほしいとき、美しい笑顔を作りたいとき、本棚からとり出して、ページをめくってもらえれば、と思う。

そして、涙を乾かし、勇気を出して、明日に向かって笑顔で歩き出すときのきみたちの姿を見ること。それが、お父さんにとっての最高の幸せだということを忘れないでいてほしい。

1

出発

日夜(にちや)、夢の確認をしなさい。

そのために、今日(きょう)、自分が努力したかを

考えなさい。

いつでもスタート地点

お父さんは、ユニフォームを脱ぐと決意した四十歳のとき、国から〝国民栄誉賞〟という名誉ある賞をいただいた。知らせを聞いたとき、何が起きたのか、まるで理解ができなかった。

というのは、野球界でこの賞を受賞したのは、今の巨人軍監督、王貞治さんただひとりだったからだ。巨人軍選手時代の王さんは、打つべきときに打つ立派な四番打者で、八六八本の世界最多ホームラン記録を持つ。

お父さんから見れば、手の届かない存在だった。今もその想いは変わらず、王さんは、お父さんにとってはかけ離れた英雄のような人だ。その王さんと同じ賞をいただけるなんて、考えてみたこともなかったんだ。

だから、あまりの驚きで、なぜそんな名誉ある賞をいただけたのか、お父さんの何にその賞が与えられたのかその理由がわからなかった。ただ、日がたって、やっとゆっくり事の次第を見つめられるようになったとき、一つだけわかったことがあった。

それは、一つのことをとことん追求すると、〝人間は変われる〟ということだ。

野球界に入ったときのお父さんと、今のお父さんは、まるで別人だ。二十三年前、プロ野球に入ったころのお父さんは、遊ぶことにしか目のいかない、あきれた男だった。選手失格ギリギリのところまで追いやられたくらい、ひどい生活をしていたんだからね。

ところが、昭和四十六年にきみたちのお母さんと結婚して、ちょっと変わった。自分のことだけを考えていればいいというわけには、いかなくなったからね。

そして、昭和五十年、カープが初めて優勝して、また少し変わった。改めて、野球というものを知ったというのかなあ。

そうやって少しずつ変わってきたところで、昭和五十四年前半、まったく打てない、という大きなスランプに陥った。お父さんは泥沼に落ちた。でも、そのスランプが転機になって、お父さんの考え方、人生との取り組み方、生き方みたいなものが、ガラッと大きく変わっていったんだ。五十四年、お父さんは三十二歳だった。

そのときから、野球をやめるまでの約十年間に、お父さんは、生まれ変わっていったんだね。お父さんの何に、国民栄誉賞が与えられたのかはわからないけれど、その対象となったものは、三十二歳から四十歳の間にでき上がっていった新しい〝自分〟だということは、間違いないはずだ。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com